

北海道の印刷

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

5

第828号

2025年5月10日発行

北海道の難読地名

洞爺

難読レベル

★★★★☆

春の洞爺湖畔（虻田郡洞爺湖町）

CONTENTS

3 令和7年度第1回理事会開催される

4~6 令和6年度下期北海道地区印刷協議会開催される

7・8 HOPE2025 出展・出講募集のご案内

9 令和7年度通常総会開催のお知らせ

9 [予告] 令和7年度上期北海道地区印刷協議会開催のお知らせ

10 専門家派遣事業（伴走型経営力強化支援事業・事業承継促進支援事業）のご案内

洞爺湖

北海道印刷工業組合

〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル

TEL.011-595-8071 / FAX.011-595-8072

[Website] <https://www.print.or.jp> [E-mail] info@print.or.jp



この印刷物は、CSRに取り組む印刷会社が製作した印刷物です。

令和7年度通常総会提出議案を審議

令和7年度第1回理事会開催

令和7年度第1回理事会が、4月23日午後1時30分から札幌市中央区の札幌パークホテルで理事9人と監事2人が出席して開催され、令和6年度決算、令和7年度事業計画（案）、同収支予算（案）などを審議し、令和7年度通常総会への提出議案を決定した。

理事会は、岸理事長のあいさつの後、定数報告が行われ、理事長を議長に議事に入った。

(1)令和6年度事業報告書については、令和6年度の事業実施の状況、会議開催の状況、組織の状況について説明され、承認された。

(2)令和6年度決算（案）については、令和7年3月31日現在の財産目録、貸借対照表、損益計算書、予決算対比表、剰余金処分案について説明され、4月22日に会計監査が行われ、決算内容・会計処理は適正である旨の監査報告書をいただいたことが報告され、令和6年度決算（案）を承認した。

令和6年度決算額は、収入総額が18,421,798円となり、当期純利益金額647,496円を計上し、令和6年度末（令和7年3月31日）の正味財産は、20,602,092円をなった。剰余金処分案として、当期純利益金647,496円のうち特別積立金70,000円を処分額として、前期繰越剰余金13,932,596円と合わせ、14,510,092円を次期繰越剰余金とすることが承認された。

また、本部・支部合算の貸借対照表・損益計算書についても承認された。

(3)令和7年度事業計画（案）については、令和7年度事業計画は、これまで培ってきた事業の成果と実績を踏まえ、「組織の拡大」、「広報活動の強化」、「未来を創る業界運動の展開」「印刷の月」行事の取り組み」、「共済事業への加入促進」、「福利厚生事業の実施」、「組織・財政状況の検討」、「第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会の開催準備」を柱とした各種事業を、組合員企業の繁栄と発展のため積極的かつ強力に推進し、印刷産業がDXで世の中をより便利にするため、地域に根差し人々の暮らしを彩り、幸せを創る印刷産業と発展するため積極的に推進していくことが承認された。

(4)令和7年度収支予算（案）については、前年度決算額を421,798円減額した18,000,000円を計上することが承認された。

(5)令和7年度組合員の賦課金額及び徴収方法の決定（案）については、令和7年度賦課金額を組合員各社からの売上額自主申告による20ランク制として、徴収方法は当月賦課金を当月末までに所属支部の指定預金口座に払い込むことが承認された。

(6)第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会の負担金額及び徴収方法については、負担金額を北海道情報・印刷文化典確認事項に基づき1社12,000円とし、徴収方法は所属支部の指定する期日までに所属支部指定預金口座に払い込むことが



承認された。

(7)常勤役員の報酬（案）については、令和7年度専務理事報酬が原案どおり承認された。

(8)令和7年度借入金の最高限度額（案）については、本組合運転資金の借入枠として、500万円とすることが承認された。

(9)令和7年度通常総会の開催及び提出議案については、5月16日午後3時30分から札幌パークホテルで開催することを決定した。

提出議案は、(1)令和6年度事業報告について、(2)令和6年度決算（案）について・監査報告、(3)令和7年度事業計画（案）について、(4)令和7年度収支予算（案）について、(5)令和7年度組合員の賦課金額及び徴収方法の決定（案）について、(6)第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会の負担金額及び徴収方法の決定（案）について、(7)常勤役員の報酬（案）について、(8)令和7年度借入金の最高限度額（案）についての8議案とすることを決定した。

(10)全印工連の官公需対策の取り組みについて、岸理事長から全印工連常任役員会において経済産業省から総務省と協力して最低制限価格の導入、知的財産・印刷データの取り扱い等について導入を検討していく方針であることの説明があったことの報告と特定技能制度についての説明が行われた。

(11)令和7年度会議日程について、理事会（6回）、北海道地区印刷協議会（2回）の開催日程が説明され決定した。

次に、報告事項として、令和6年度脱退組合員7社について報告された。

以上で、議事を終了し、各支部の活動状況ならびに近況についての報告が行われ、理事会を終了した。

令和6年度下期北海道地区印刷協議会 総括会議

令和6年度下期北海道地区印刷協議会が、2月28日午後2時から、札幌市中央区の札幌パークホテルで、全印工連から高橋専務理事・富澤常務理事と組合員ならびに賛助会員約40人が出席して全体会議、委員会、総括会議、情報交流会を行い、全印工連事業についての理解を深め、組合加入メリットを追求した。

総括会議における各委員会討議内容発表・理事長総括・全印工連感想所見の概要を紹介する。

(前号より続く)

組織活性化委員会 植平有治委員長

組織活性化委員会の登録は11人であるが今日は2人と非常に寂しい委員会となり、厳しい意見はなかった。できればもう少し参加人数を増やして運営したいので協力をお願いしたい。報告事項は、生命共済PR動画を7年度版に更新したので加入促進に活用いただきたい。事業継続支援事業は事業承継センターの活用の推移と啓発で、企業提携・買収登録が51件、企業提携・買収ニーズの相談が21件、M&Aが21件、親族内承継の相談が8件、支援センター事業の内容が4件、その他9件となっている。事業承継センターを是非とも活用してほしい。今年10月に全印工連の創立70周年式典を開催するので多くの方に参加いただきたい。全印工連が発信する事業などを周知する機会を逃さないよう情報発信力の向上を目指し、組合員同士のワークシェア機能を備えたコミュニケーションツール「J-CONNECT」を来期開始する。協議事項は、令和7年度共済促進キャンペーンを行う。期間は令和7年9月から同8年3月までである。北海道は単独工組なので指名されれば実施したい。共済加入促進キャンペーンの展開と組合員加入の促進については、北海道は組合員85社で共済加入が15件で加入率が18%と低い。目標の加入率は全国で32%になっているので、これに向けて来年度も頑張っていきたいと考えているが、なかなか現実的にはかなり厳しい。なぜかと言うと、7年度の北印工組の組合員が現在85社であるが3月末で7社脱退する予定であり組合員は78社になるので、比率的には加入しているところが今までどおりであれば加入率は逆に上がるが決してこれは喜ばしいことではない。組合員を少しでも増やすよう努力していかなければならない。事業承継支援センターについては、周知・活用を皆さんにお願いしたいということで、事業承継センターに関する動画や事業承継ガイドブックの活用を支援していただきたい。北海道は、まだ2件しか問い合わせがない。印刷業経営動向実態調査は、今日が締切となっているが、北海道は85社中7社である。これしか実態調査に回答していないということで非常に低い。なんとかこの数字を上げていただきたい。これに基づいて、いろいろな多く大切な資料となる。最後に委員会事業に対する提



案と要望は、今回実際の委員は2名しかいなく1人でも多く参加して委員会運営ができ、闊達な意見を交換していければと思っている。

経営革新マーケティング委員会 大和繁樹委員長

今期行っている事業は、価値創出支援事業の推進、経営基盤強化支援事業の推進、オープンイノベーション事業である。協議事項のローカルゼブラの研究促進で、これを具現化するためにはどうことができるかを意見交換した。旭川支部の田村委員から地元企業と高校の職場体験で学生と企業が集まるプランナーとして携わっているという意見があった。異業種との連携がないとローカルゼブラは難しいので同友会等の連携で人脈づくりが必要ではないか。印刷会社としてのブランド力が必要になるなどについて話をした。産学官の連携も考えられる。なににもないところから新しいものが生まれることはないの自分からきっかけづくりをしていかないとローカルゼブラになっていくのは難しい。



教育研修委員会 矢吹英俊委員長代理

教育研修委員会は富澤委員長に参加いただき、生成AIについて話をしてもらった。Fireflyは全印工連特別ライセンスプログラムに入っていると無料で使える。印刷会社として大いに活用していくべきである。来年の教育研修委員会の活動としてFireflyの研修会を開催したいと考えている。このセミナーを営業の方との交流の場にしたい。営業マン交流セミナーとしてこのセミナーを活用したいと考えている。これから印刷業界は周りとの連携が非常に大切になってくる。そうなったとき実際に仕事を見ているのが現場の営業マンである。営業マン同士が交流することで各社が協力し合っていけると思うのでその機会を提供したい。

**サステナビリティ・CSR委員会 岡部信吾委員長**

報告事項について、全印工連CSR認定制度は現在全国で144社が取得されている。北海道では昨年の12月に札幌支部の山道山陽印刷が取得して、今、北海道では6社の取得になっている。皆さんも是非ワンスターからトライしていただければと思う。「みんなSX for BIZ」を利用したCO₂排出量の算定・集計は来年度の事業でカーボンニュートラルについての施策を検討することになっており、まずは組合員の現状の排出量を把握したいということで、「みんなSX for BIZ」というソフト使って、組合員に集計していただくということで、1月15日に事務局から全組合員へメールが送られている。そちらを確認していただき期限が3月14日と、後2週間ぐらいしかないが自社の排出量の数字を目で見られるので、協力いただける方は是非お願いしたい。人的資本経営関連の情報提供ということで、こちらは資料の方で一読いただければと思う。環境マネジメントシステムの認証認定制度は、グリーン購入法の改定ということで基準が設けられたということで、GP工場の認定と環境推進工場の登録、ISO14001ということで、この取得に向けてこちら資料を見てください。メディアユニバーサルデザイン活動でMUDコンペが開催されている。今期も9月1日から募集が行われたが、北海道の応募数が1点で大変少ない状況になっているので来期も実施するので協力をお願いしたい。協議事項は、CSR認定制度取得における課題で、制度は知っているが必要



性を感じないとの意見があった。MUDコンペの作品応募については学生に周知活動を行う意見が出た。人的資本経営・環境課題の取り組み事例についての意見交換では、ハラスメント研修、多様性に関する人事について話があった。ジョブリターン制度については退職された方が、もう1度戻ってくるというようなことで今、退職者の3割ぐらいは戻ってきている。環境については、森林認証を取得して、紙とインクと省電力の物を使って製造するようにしている。ホームページで再エネを使っている、CO₂の排出量を公開しているということを行っている会社がある。SDGsに関して森を守るという項目がある。一般のお客さんから紙を使うことが「悪」みたいなイメージがあるので、業界としてリサイクル率の高い紙を使っていると、業界としてのブランディングをしっかりとしたほうが良いという意見が出た。

青年部委員会 下國延彦委員長

2月8日に大阪で全国青年印刷人協議会の全国協議会が開催された。今回は北海道から3人が出席した。今期は「地域変態計画・アトツギベンチャーが未来を変える」をテーマに、各ブロック協議会が去年8月末の札幌での北海道ブロック協議会をスタートとして9箇所ですディスカッションの形式で開催された。延べ269名の方に参加いただけた。今期は、新規事業や業態変革を行う跡継ぎベンチャーになることを目標として、自らの興味・関心からの事業化を模索することで、業態変革へのハードルを下げるとともに地域課題の解決と掛け合わせることで、共に創り出すという共創しやすい環境に繋がっていく話をまずはさせていただいて、その後に各3社のこういった事業をしているかをディスカッション形式で話をした。3社ともやっている事業は違ったので、今後、協力していこうと



なった。今年も北海道ブロック協議会があるので、参加をしていただいて、いろいろと外に出て、ディスカッション、コミュニケーションを取ることでお互いに刺激あって、大なり小なり一歩踏み出せるような形を作っていきたい。

理事長総括 岸昌洋理事長



組合はいろいろなことを多岐に亘って行っている。それぞれ自社に持ち帰っていただきたいという話をしたが、なかなか資料だとか口頭だけの説明だと足りない部分もあると思うので、私も含めて委員長をぜひ活用していただきたい。それぞれ説明に上がるので、ぜひ活用していただきたい。印刷マーケットはどんどん縮小していつている。これは誰がどう努力しようと止められない。資材が高騰していて人件費もどんどん上がっていく。人もだんだん採用できなくなっているし、不足していく。こういう非常に苦しい状況であるが我々は事業を継続しなければならないし、継承していかなければならない立場でもある。全印工連はDXを推進している。DXというとデジタルの力を使って自社を革新して変革していくことである。トランスフォームする、変革して革新することが一番大事である。継続して継承していくために、今日、非常に長時間、皆さんに協力いただきながらこういういろいろな取り組みを紹介させていただいたが、継続して継承していくために我々が今日発表させていただいたようなそれぞれのコンテンツをぜひ活用していただきたいという思いで地区印刷協議会を開催させていただいている。皆さん、このような意図を汲んでいただいて指導・鞭撻をお願いしたい。

全印工連感想所見 富澤常務理事



先ほど岸理事長から話があったように、事業の継承と継続が主眼いうところに私も賛同させていただいている。先ほどの分科会の報告、大変活発なところもあり、委員がいなくて困っているというような話もあった。組織活性化委員会は、やはり組合員の減少に苦慮されているのがよく分かった。各県も同じような状態だと思うが、北海道は地形でも問題・課題があると感じた。共済を含めた組合のメリットをどう伝えていくのか、これは長年の課題だと思う。新しいいろいろなものを伝えていく。地域・会社に戻って、各委員会の委員長が事業の意義を伝えていくという話もあったが、やはりそのメリットをどうやって伝えられるのかというのが非常に重要なことになってくる。経営革新マーケティング委員会は、今期から始まっている全印工連全体の事業を理解いただいている大変ありがたい。キーワードとしては企業連合という形である。

事業を継承するにあたっては1社1社だけではなかなかできない、そういう時代にも突入している。ゼブラ企業という話もあったが、どうやって伝えていくのか、連携、連合していくのかが、これから私たちが生きる道の1つになるのではないかと。その意味では教育研修委員会で話をさせていただいたAIのツールとか、社員教育というのはその連合を高めるための1つの武器・ツールになってくると私は思っている。皆さんの会社1社1社の強みが前面に出てこない、どうやって連合を組んでいいのかも分からないし、そこにはリーダーシップも必要になってくる。サステナビリティ・CSR委員会は、やはりCSRは非常に重要だと私も感じた。先ほどの連合・連携・継承という話では個社そのものが社会的責任をどれだけ負っているのかである。そこがなければ正々堂々と連合を組むことができない。企業経営の基本としてCSRがある。また環境としての責任を果たしているか、カーボンニュートラルを果たしているかが大変重要になってくる。青年部委員会の活動では北海道地区では若手が育っている。次の担い手、つまり北海道の組合を継承していく下支えとしての基盤がもうできている。これから未来の継承は、北海道地区は盤石なのではないかと思うし、全国での青年部会でも北海道からのプレゼンがあり、他地域に比べたら大変高いものになっている。

大変多い全印工連の事業であるが、いろいろ多岐に亘っているようで以外と一本の線につながっていると思う。方向性は一緒である。それにはこういうツールがあり、それはこういう制度があったらいい、そんな企画があったらいいと事業がつながっている。そういうふうを考えてもらって、やはり一本の方向性は同じであり、皆さん経営者の考えも同じと考えて良いかと思う。そのようななかたちで、皆さんのいろいろな意見を伺った。これを持ち帰って、いろいろとこれからの新しい事業に活かしていきたいと思う。

北海道印刷工業組合

メールマガジン
配信登録受付中

メールマガジンの配信希望は、北海道印刷工業組合のHP から申込受付を行っています。

[URL]

<https://www.print.or.jp>

HOPE2025 出展・出講のご案内

HOPE実行委員会は、2016年から開催し、9回目となる「HOPE2025」を、「DXで印刷価値創出～高付加価値コミュニケーションサービス産業へ～」をテーマに、9月3日（水）・4日（木）の平日2日間、札幌市白石区のアクセスサッポロを会場に開催する。

現在、出展ならびにセミナー出講の募集を行っている。

HOPE25 ご出展ならびにセミナーご出講のお願い

印刷資機材・情報機器製造ならびに販売各社の皆様には、平素から道内印刷関連業界に対しまして格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

HOPE(HOKKAIDO PRINT EXPO) は、展示会とセミナーを組み合わせた情報発信と学びの場として、2016年からこれまで8回開催して参りました。

お蔭様で多くの方々から高い評価をいただいております。

印刷産業を巡る環境は、少子化と急速な高齢化などの社会経済の構造的な課題、エネルギー・原材料価格の高騰、人手不足への対応などが強いられ、依然として厳しい状況が続いており、加えて価格転嫁対策、脱炭素への取り組み、DXや働き方改革の推進などの課題も山積しています。

このような未曾有の転換期の渦中にあり、印刷企業が持続的な発展を遂げるためには、過去の延長線から脱却した新しい印刷産業へのリ・デザインが求められています。

そのためには、ハードとソフトの両方に着目をして、新しい目線で印刷産業を捉え、印刷産業が発展を遂げられるようにしていかねばなりません。

さらに、デジタル・AI技術等の急速な進展により、社会における情報の多様化が加速し、文化と情報コミュニケーションの担い手である印刷産業の果たす役割と責任は一層重要になり、社会や人々から求められる期待も日増しに大きくなっています。

このような状況を踏まえ、第9回となります今年の「HOPE 2025」は、出展者の皆さんと来場者の皆さんがコミュニケーションを図り、各社が新たな価値を見出し、新しいかたちのビジネスを展開し、発展を続けられるよう開催準備を進めています。

本年も、9月3日（水）・4日（木）の平日の2日間、札幌市白石区のアクセスサッポロで、「DXで印刷価値創出～高付加価値コミュニケーションサービス産業へ～」をテーマに開催します。

HOPE2025は、過去8回の反省点を踏まえ、さらに工夫を凝らし、情報発信と学びの場として、より有効に活用できるように努めて参ります。

印刷資機材・情報機器製造ならびに販売各社の皆様には、ICT時代を切り開く大きな戦力や武器となる最新の機器・機材・資材等のご出展ならびに企業発展に寄与する経営・技術情報等のセミナーをご出講いただきたくお願い申し上げます。

印刷関連業の皆様には、自社のコラボレーションビジネス情報発信の場として、ご出展ならびにご出講いただきたくお願い申し上げます。

2025年4月

HOPE実行委員会 会長 岸 昌洋

締切
迫る!!

開催要領

- ① 日 時 2025年9月3日（水）・4日（木）／10：00～17：00（4日は16：00終了）
- ② 会 場 アクセスサッポロ（札幌市白石区流通センター4丁目3番55号）
- ③ テー マ DXで印刷価値創出～高付加価値コミュニケーションサービス産業へ～
- ④ 展 示 会 Dホール 80小間

⑤ セミナー	会 場 名	定 員	10：30～12：00	12：30～13：30	13：45～14：45	15：00～16：00
9月3日（水）	小展示場	50人	基調講演		②	
	レセプションホール	40人		①		③
9月4日（木）	小展示場	50人	特別企画		⑤	
	レセプションホール	40人		④		⑥

※会場の詳細は、アクセスサッポロのホームページ（<https://www.axes.or.jp/>）をご参照ください。

HOPE2025 出展およびセミナー出講募集要領

1 展示会

- ① 出 展 料 金** 1小間(間口3,000mm×奥行2,500mm×高さ2,400mm) 110,000円(税込121,000円)
※基本装飾(3面パネル・社名板のみ)、基本電気設営、電気使用料を含みます。
- ② 搬入・設営** 9月1日(月) 10:00~17:00/9月2日(火) 9:00~17:00
- ③ 撤去・搬出** 9月4日(木) 16:00~20:00

2 セミナー

- ① 開催協力金** 1セミナー50,000円（税込55,000円）
※プロジェクター、スクリーン、マイクは実行委員会でご用意します。
それ以外のものは各社でご用意ください。
- ② 開催方法** ①2日間で8小間のセミナー枠を設け、うち6小間を出展社の皆様にご提供します。
②セミナー受講料は、原則、無料とします。
③受講者募集の周知は、実行委員会およびセミナー開催会社が協力して行います。
④お申込みいただいたセミナー開催希望日は、調整させていただく場合があります。
- ③ 時間** 1セミナー：60分

3 申込方法

出展・セミナー出講申込書（別紙）に必要事項をご記入の上、下記へお申込みください。

HOPE実行委員会

〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル4階 北海道印刷工業組合内

電話011-595-8071 FAX011-595-8072 [e-mail] hope@print.or.jp

4 申込期日

2025年5月24日 ただし、申込先着順とし、満小間になり次第、募集を締め切ります。

5 出展・出講料金のお支払

募集締切後、請求書をお送りさせていただきます。

納入期限は、**2025年7月31日**とさせていただきます。

6 展示会配置図およびセミナー時間割

7月上旬開催予定の「出展社説明会」でお知らせします。

7 ポスター、ガイドブックおよびDMハガキ（7月中旬作製予定）

ご希望の場合は、出展・セミナー出講申込書にご記入ください。

なお、配付数については調整させていただく場合があります。

8 展示会での特別装飾・照明（有料）

ご希望の場合は、出展・セミナー出講申込書にご記入ください。

9 貸出備品、会場使用の注意事項等について

「出展社説明会」でお知らせします。



令和7年度通常総会開催のお知らせ

北海道印刷工業組合は、令和7年度通常総会を、下記により開催する。

記

1. 開催日時 令和7年5月16日（金） 午後3時30分
 2. 開催場所 札幌パークホテル（札幌市中央区南10条西3丁目 電話011-511-3131）
 3. 議案
 - 第1号議案 令和6年度事業報告について
 - 第2号議案
 1. 令和6年度決算（案）について
 2. 監査報告
 - 第3号議案 令和7年度事業計画（案）について
 - 第4号議案 令和7年度収支予算（案）について
 - 第5号議案 令和7年度組合員の賦課金額及び徴収方法の決定（案）について
 - 第6号議案 第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会の負担金額及び徴収方法の決定（案）について
 - 第7号議案 常勤役員の報酬（案）について
 - 第8号議案 令和7年度借入金の最高限度額（案）について
- 報告事項

予告 令和7年度上期北海道地区印刷協議会開催のお知らせ

北海道印刷工業組合は、令和7年度上期北海道地区印刷協議会を下記により開催する。

日時	令和7年6月27日	14:00～18:40
	全体会議	14:00～15:00
	分科会（委員会）	15:10～16:10
	総括会議	16:15～17:00
	情報交流会（懇親会）	17:10～18:40

会場 札幌パークホテル（札幌市中央区南10条西3丁目）

※正式な開催のご案内は別途送付される。

～北海道の未来を拓く 創業・経営力強化等支援事業～

道内中小企業・小規模事業者の皆さまへ

専門家を派遣します!

派遣費用
無料

伴走型経営力強化支援事業

事業計画策定や販路開拓をはじめ様々な経営課題に対して専門家を派遣し、地域支援機関等と連携して課題解決に向けた伴走支援を行います。

対象者

- ①創業を予定する個人
- ②中小企業・小規模事業者

事業承継促進支援事業

円滑な事業承継を促進するため、専門家を派遣し、地域支援機関等と連携して課題解決に向けた伴走支援を行います。

対象者

- ①事業承継を検討している中小企業・小規模事業者
- ②事業承継を今後進めたいと考えている中小企業・小規模事業者

共通事項

派遣内容

それぞれの課題に応じた専門家を当センターが相談者と協議の上、選定・派遣します。

派遣回数 1社あたり2回程度

派遣専門家 中小企業診断士、公認会計士、税理士、社会保険労務士、行政書士、ITコーディネータ、技術士、衛生管理や品質管理の指導員、フードマイスターなど

申込方法

メール keieishien@hsc.or.jp (北海道中小企業総合支援センター経営支援部)
裏面の申込書に記入の上、PDFデータをメールにて送信ください。

WEB <https://6ba0e801.form.kintoneapp.com/public/a>
URLもしくは右のQRコードより申込ください。

FAX 裏面の申込書をFAX(011-232-2011)にて送信してください。



公益財団法人

<お問い合わせ先>

北海道中小企業総合支援センター

ホームページ <https://www.hsc.or.jp>



札幌本部 〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 経済センタービル9階

TEL 011-232-2402

道南支部 〒040-0015 函館市梁川町5番10号 プライム函館EAST8階

TEL 0138-86-6695

十勝支部 〒080-0013 帯広市西3条南9丁目23番地 帯広商工会議所内

TEL 0155-67-4515

釧路支部 〒085-0847 釧路市大町1丁目1番1号 釧路商工会議所内

TEL 0154-64-5563

道北支部 〒078-8801 旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内

TEL 0166-68-2750

日胆支部 〒050-0083 室蘭市東町4丁目28番1号 室蘭テクノセンター内

TEL 0143-47-6410

オホーツク支部 〒090-0023 北見市北3条東1丁目25番地 北見経済センタービル5階

TEL 0157-31-1123

本事業は、公益財団法人全国中小企業振興機関協会の中小企業地域資源活用等促進事業の助成金を活用して、公益財団法人北海道中小企業総合支援センターが実施するものです。このPRチラシは、同助成金を活用して作成したものです。



HOPE 2025

HOKKAIDO PRINT EXPO

テーマ



で 印 刷 価 値 創 出

～高付加価値コミュニケーションサービス産業へ～

日時

2025年9月3日水・4日木

10:00～17:00
(4日は16:00終了)

会場

アクセスサッポロ

札幌市白石区流通センター4丁目3番55号

主催：HOPE実行委員会

北海道印刷工業組合／北海道グラフィックコミュニケーションズ工業組合／北海道製本工業組合／北海道フォーム印刷工業会／北海道紙器段ボール箱工業組合

後援：経済産業省北海道経済産業局／北海道／札幌市／北海道中小企業団体中央会／札幌商工会議所／一般社団法人北海道中小企業家同友会
一般社団法人日本グラフィックサービス工業会

協賛：株式会社印刷出版研究所／ニュープリンティング株式会社



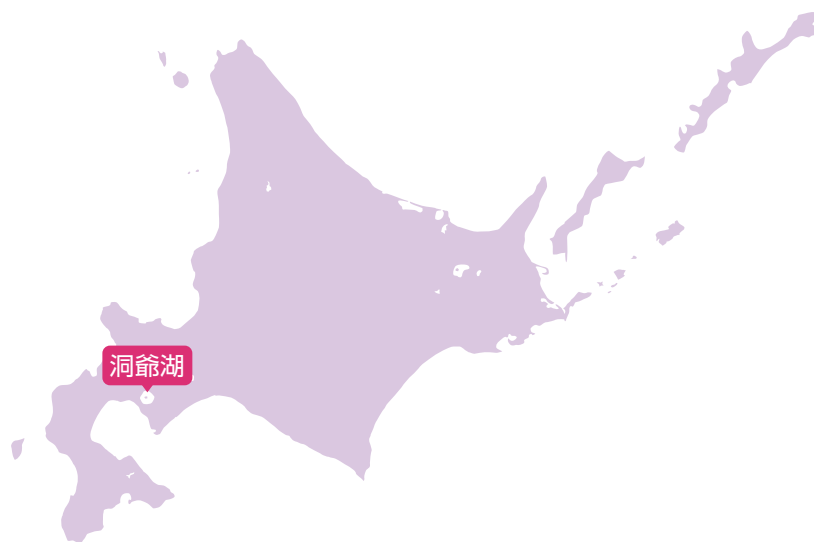
北海道の難読地名

洞爺

難読レベル

★★★★☆

春の洞爺湖畔（虻田郡洞爺湖町）



表紙の解説
洞爺(とうや)
アイヌ語のトヤ「湖・の岸」の意。 to-yaは普通名詞みたいなので、湖岸ならどこでもそうであつたろう。洞爺湖も他の大きな湖沼と同じように、ただtoと呼ばれていたようである。湖岸の名を採って和人が洞爺湖と呼ぶようになったのだろう。
参考資料：北海道「アイヌ語地名リスト」 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new_timeilist.html

難読レベル	
★★★★☆	道外の方でも読める
★★★★☆	道民のほとんどが読める
★★★★☆	道民の半分くらいが読める
★★★★☆	道民でもほとんど読めない
★★★★☆	地域住民以外は読めない
※難読レベルは北海道印刷工業組合独自の基準です。	